



今後の取組について

企業の森の活動は、CO₂の削減につながり、地球温暖化や気候変動を抑制させることから、社会的役割を果たす重要なことと認識しています。この取組を長期間継続し、いち企業のイベントとしての活動で終わらせるわけにはいかないと思っています。

社業としては、長く育てられた貴重な木材に付加価値を付けて世に出していくこと、そして、環境を含めた持続可能な社会（SDGs）の実現に向け、無駄のない木材の活用を行っていきたいと考えています。

また、近い将来白鷹町の企業と連携して、試験的にはありますが、白鷹町産材を活用した家具の製造にも取り組んでいけたらと考えています。



株式会社朝日相扶製作所

西村山郡朝日町大字宮宿 600-15

■従業員数：122人
(うち白鷹町出身8人)

昭和45年8月、冬の出稼ぎ防止対策で椅子カバーの縫製工場として朝日町で創業。その後、木工部品の製造、木工家具製品の製造と事業範囲を拡大し、国内外のブランド木製家具製造を請け負う。平成24年には国連本部ビル会議場の椅子を出荷するなど国内外約80カ国に製品を供給している。現在は、国内でも有数の技術を持つ家具製造事業所となる。

立社の基本は、「【地域にとって】「お客様にとって」「自身と家族にとって」なくてはならない企業】であること」としており、地域社会の中で大きな役割を担ってきた。

この絆を通して～

令和3年11月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行っている本町において、町の考えに賛同いただき森林整備を通じた環境保全活動に取り組んでいただいていることにつきまして大変嬉しく思っております。

株式会社朝日相扶製作所は、隣の朝日町で木材を扱う企業ということであり、林業を振興する白鷹町としては、今後とも連携を図り社会の大きな役割として地球環境の保全に取り組んでいくとともに、長い付き合いをさせていただければと思います。

白鷹町林政課

【問い合わせ】林政課林業振興係 ☎ 87-0218

朝日相扶絆の森 白鷹 ～ 12 年目を迎えて～

平成 25 年 2 月に「やまがた絆の森協定」を株式会社朝日相扶製作所と締結し、今年で 12 年目を迎えました。今日まで、鮎貝地区に「朝日相扶絆の森白鷹」を設置し、ブナ森の草刈りや植樹、また子ども向けの木工体験や植林活動を積極的に行っていただきました。

そして今回、今後の展望について阿部佳孝代表取締役社長にお聞きました。

このように貴重な木材を使って製品を造っていることを社員が振り返るという意味です。

当社で使っている木材の多くは、ヨーロッパや北米の広葉樹を使っています。それは、家具の材料になるまでに 100 年間計画的に森林を育て得られた木材です。ドイツでは 500 年も前から森林環境に配慮し、計画的な広葉樹の育成が行われてきたようです。

も貴重な機会であると捉えています。木材を使って製品を造っていますが、使用している木がどのように生育しているのかは、実際作業をしてみないとわかりません。そのようなことから、製品を造るときには、違った視点も出てくるのではないかと思います。

また、作業の後はパレス松風で社員の懇親会を行っています。普段は違う部署で働く社員も一緒に作業をして懇親すること、社員の親睦にもつながっています。

森林整備を行う意義と
社業への影響について

私たちの使命。

それは次世代のための森林を造成すること。



株式会社朝日相扶製作所
代表取締役社長

あべ よしたか
阿部 佳孝 さん

千葉県出身、オフィス家具メーカーを経て 2001 年入社。05 年に 33 歳で社長に就任。(創業者・阿部宗一郎氏の孫)



「朝日相扶絆の森 白鷹」

これまでの経過について

■第 1 期協定(平成 25 年 2 月～平成 28 年 3 月末)

【主な活動】 協定締結式、看板の設置、年 2 回のブナの森下草刈り、森林散策等

■第 2 期協定(平成 28 年 4 月～令和 3 年 3 月末)

【主な活動】 年 2 回のブナの森下草刈り、森林散策等

■第 3 期協定(令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月末)

【主な活動】 年 2 回のブナの森下草刈り、植樹体験、白鷹山登山、子ども木工体験等